

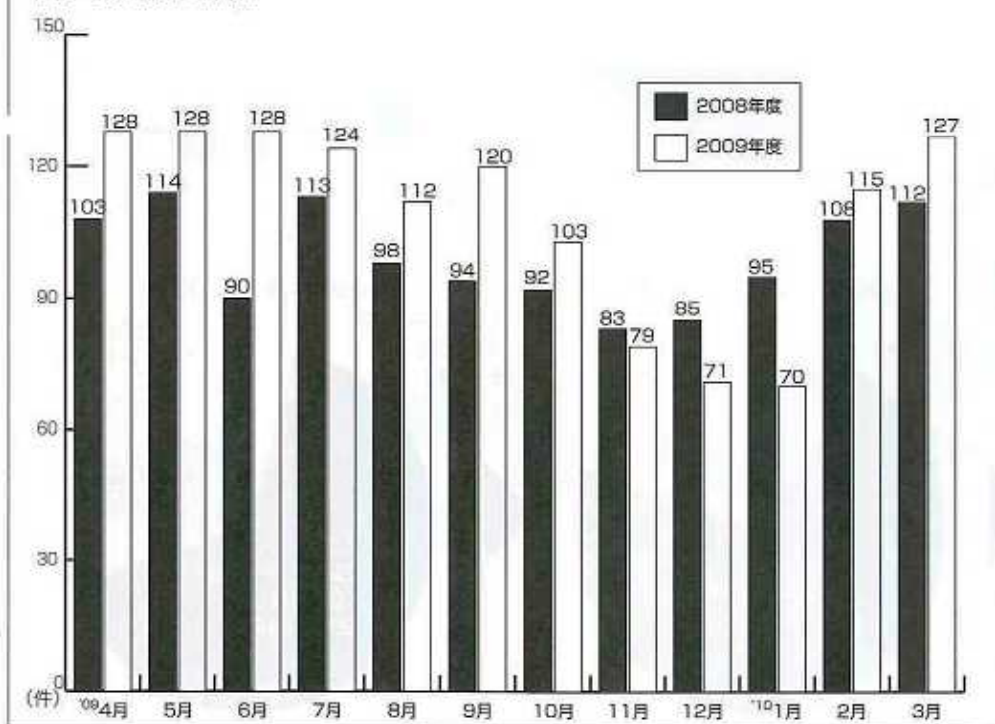
相談件数は1305件と増加 RSNの認知度は確実に向上

パチンコ依存問題に関する無料電話相談を行うリカバリーサポート・ネットワークが、09年度の電話相談の内容を「ばちんこ依存問題電話相談事業報告書」にまとめ公表した。

報告書によると09年度の相談件数は1305件で前年度より118件の増加となった。

また、今年1月より「貸玉の種類」など新たに4項目が調査項目に追加されたが、特に「1ヶ月の使用金額」で20万円以上が18%と多いのは懸念材料となりそうだ。

図1 月別相談件数



パチンコ依存問題の相談機関として2006年4月から無料電話相談事業を行う特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク（沖縄県中頭郡・西村直之代表理事、略称・RSN）は、09年度の「ばちんこ依存問題電話相談事業報告書」を発表した。この報告書では09年4月から10年3月までの電話相談の内容がまとめられ、主に依存問題を持つ本人の実態を明らかにする目的がある。今回は新たに依存問題を持つ本人を対象として「貸玉の種類」「1回の遊技時間」「1週間に遊技する頻度」「1ヶ月に使う金額」の4

項目を追加している。相談件数はさらに増加男女比等に大きな変化なし
08年度の相談件数は1305件。うち825件（63%）が問題を持つ本人となった。相談件数は初年度が989件、07年度が846件、08年度が1187件と増加傾向にあり、要因はパター内でのポスター掲出やインターネットでのリンク等で遊技者やその家族・友人等に対する認知度が向上した結果といえる。
また月別にみると、11〜1月では70

件台まで落ちているが、その他の月では100件を超えている。ひと月の平均件数は108・8件。相談件数は毎年冬場に減少する傾向があり、その要因についてはRSNでも調査を進めたといっている。
相談者（コーラー）の性別では、男性が48%、女性が41%と男女の差異はなく、前年度と変わらない結果となった。問題を持つ本人の性別は男性が65%、女性が24%となり、こちらも前年度との大きな変化はみられない。男性の遊技者が多い業界だけに、問題を持つ本人も男性の割合が高くなっている。
通話時間も前年度との変化はみられず、「10分から20分未満」が42%と最も多く、次に「10分未満」が35%、「20分から30分未満」が16%と続き、相談時間は概ね30以内を終了している。相談内容では、問題を持つ本人からは「やめる方法を教えてほしい」と簡潔な質問が多く、相談時間も短め。
一方、家族や友人等は対象者に対する感情や自身が抱える不安などを話す傾向にあり相談時間は長くなる。当然家族や友人等は対象者への「やめさせる方法」を知りたいとする相談が多いが、生活の中での「接し方」に対するアドバイスもよく聞かれる傾向も変わらない。

番号認知にポスターが貢献 高額使用者の多さに懸念

無料電話相談の番号を知った相談経路では、問題を持つ本人は「ホール内ポスター」（76%）、「インターネット」（10%）と続く。次に家族・友人等は「インターネット」（37%）、「新聞」（ホール内ポスター）（共に12%）となった。問題を持つ本人は、相変わらず「ホール内ポスター」の比率が高いが、家族・友人等では「インターネット」の比

図2 コーラーの関係性

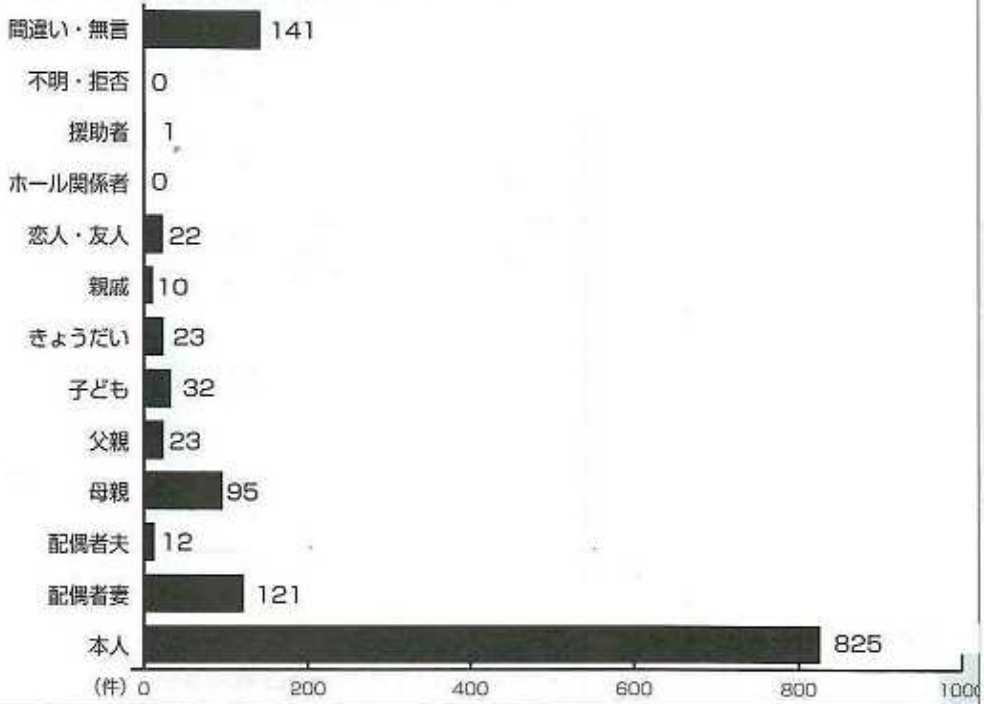


図3 相談経路 本人及び家族・友人の経路

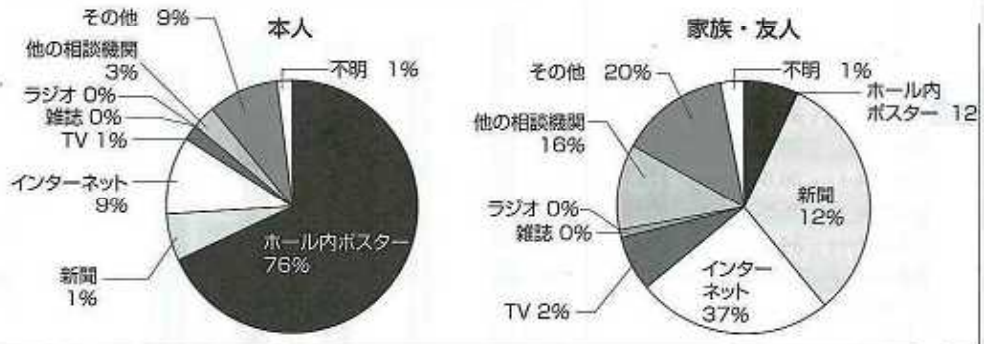


図4 コーラー・対象者の性別



率が高くなってきている。これは、09年度に新聞等のメディアに露出する機会が減った影響もあるが、自主的にネット検索で情報を収集する状況が鮮明になっている。

最後、今年1月より追加された新項目に触れたい。

まず問題を持つ本人が利用する「貸玉の種類」は「通常貸玉」が65%、「低貸玉」が12%、通常貸玉と低貸玉の「両方」が21%となった。この結果から「両方」を含めて約3割の問題を持つ本人が低貸玉を利用している状況だ。「1回の遊技時間」では、「3〜6時間未満」が38%と最も多く、続いて「6〜8時間未満」の24%と遊技時間は長い傾向にある。

次に「1週間に遊技する頻度」は「ほぼ毎日」が50%と半数を占めた。依存問題を持つ本人の来店頻度は高い。「1ヶ月に使う金額」は「5万円未満」と「5〜10万円未満」が同率（25%）、「10〜15万円未満」が23%と15万円未満の使用金額が全体の7割以上を占めたが、「20万円以上」が18%と高額使用者の割合が高いことは懸念材料といえる。